

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	2070700212		
法人名	社会福祉法人グリーンアルム福祉会		
事業所名	グリーンクリスタル		
所在地	長野県須坂市大字仁礼7番地10 (電話) 026-215-2662		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年8月28日	評価確定日	平成19年9月25日

【情報提供票より】 (平成19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 10月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤17人, 非常勤 2人, 常勤換算17.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造アルミニウム板葺き平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有 (円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (80,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 980円		注:一ヶ月30,000円(おやつ代込み)	

(4) 利用者の概要(平成19年 8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 87.3 歳	最低	71 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立須坂病院、長野市民病院、長野赤十字病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グリーンクリスタルは法人の運営するグリーンアルム複合施設の地域密着型グループホームとして2ユニットを有し、それぞれが連携しながら個性あるホームの運営をしている。複合施設のメリットを生かし、入居者は同じ敷地内にある施設を利用し、法人の催物やお茶飲み会などに参加、ボランティアや参加者との出会いを楽しみにしている。職員は法人の研修(事例研究等)や外部講師を招いての研修に積極的に参加し資質の向上に努めている。また、これからの課題である長野圏域のグループホームのネットワークづくりにもホーム長が積極的に取り組んでいる。入居者一人ひとりのペースに合わせて一緒に生活している職員の姿を垣間見て、失われつつある、昔ながらの大家族が温かみのある仲の良い暮らしを送っているような懐かしい想いに浸った。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果は会議やミーティングで報告され、改善に向けて具体案を検討し、実践につなげるために努力をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価は全職員に伝えられ、自己評価は分担して全員で行なっている。地域密着型サービス評価の意義や目的については会議やミーティングで話し合い、充分理解した上で行なわれた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を有意義な会議にするため新たな委員の選定も行ない、会議が有意義に機能するように積極的に取り組んでいる。市関連部署にグループホームの広報誌『ふれあい通信』を毎月送付しており、制度上や運営上の問題については随時連絡が取れている。ホームの直面している運営やサービスの課題解決に向けて市担当部署とも協議し、共に取り組む関係作りを徐々に構築していただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月定期的にお便り(写真が多く様子がよく分かる)を発行し、ホーム内の様子を知らせて喜ばれている。ターミナル期を迎えている家族もあり、それに関しての指針もあるが、一人ひとりの家族の支えになれるよう更に取り組んで欲しい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームには保育園児や小学生が遊びに来たり、中学生や高校生がボランティア活動に来ている。また地域に行事があれば出掛けて行くなど地域と交流に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義、役割を理解した上でホームの理念を話し合っている。ホームの理念“共に暮らす幸せ”には“地域の中で暮らし続ける”の意味も含めた理念とし、職員全員で確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所、ホールなど見やすいところに掲示されている。日々利用者に関する際に職員は理念を意識しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームには保育園児や小学生が遊びに来たり、中学生や高校生がボランティア活動に来ている。また地域に行事があれば出掛けて行くなど地域との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行っている。自己評価を行うことで職員は自らの姿勢を正し、評価の意義・目的について理解を深めている。外部評価の結果は会議で報告し、改善に向けての検討や実践につなげる仕組みが出来ている。		

グリーンクリスタル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動内容をスライドで紹介している。地域の住民はありのままの生活を見て『散歩している姿を見かけるが職員でないとだめなのか』、また『隣に行くような感覚で来てもいいのか』などホームに対して好意的であり、理解が深められている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの広報誌『ふれあい通信』を毎月、市関連部署に送付している。制度上や運営上の問題については随時連絡が取れている。	○	市担当者にホームの運営や実状などを報告するなどして、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、共に取り組む関係作りを徐々に構築していただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月一回定期的にふれあい通信が発行されている。ホームの行事や普段の暮らしの様子を写真中心に編集し、新入居者の紹介や職員の異動等をきめ細かく知らせている。個人の様子は家族が来園した際に話したり手紙で知らせている。緊急を要した場合は電話で報告している。金銭管理については領収書を添えた上で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、苦情、要望等があればどんなことでも速やかに受け、検討し、活かしていく取り組みがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の顔馴染みの関係作りを大切にしている。やむを得ず異動や退職者がいる場合は引継ぎの期間を充分にとっている。家族にはホーム便りで報告している。		

グリーンクリスタル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、複合施設全体の研修、月一回のホーム内学習など学習の機会がある。研修を受けた職員からの伝達研修や報告書を閲覧出来るようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は北信圏域のグループホームのネットワークづくりの責任者として積極的に関わっている。すでに数回の会合を開き、情報交換を行っている。今後は互いのホームを訪問して評価をしたり、勉強会の開催や職員交流など、サービスの質の向上を目指した取組みを行おうとしている。		
昨年					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	人間関係を築きつつ、徐々に馴染みながら入居出来るように、利用開始まで半年から一年位かけている場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『入居者は人生の先輩である』という考えを職員は共有している。毎日の生活の中で“生活の知恵”を教えてもらう場面が多い。		

グリーンクリスタル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者の気持ちを尊重し見守り、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が中心となり、チーム全体でアセスメントを行い、ケアプランが作成されている。早期の問題解決のために、不眠や不穏などの用件に関しては短期の介護計画が通常の介護計画とは別に作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態に合わせて随時介護計画の見直しがされている。現状と介護計画に差が出たり状態に変化が出た際は随時見直しを行ない、現状にあった介護計画を作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの空きベッドを利用したショートステイ、看護師による医療連携、通院などの外出の付き添いなど家族に代わって対応している。		

グリーンクリスタル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が代わる場合は家族に説明し了解の上変更している。通院の場合は状態がよく分かる職員が家族に代わって付き添っている。医師と看護師の連携は出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルに関する指針が作成されている。入居時に家族の意向は確認されているが、状態の変化や経過を見ながら必要に応じ医師から家族に説明があり、意向も繰り返し確認している。職員は終末期について学習し、何度も話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者に対し人生の先輩として尊敬の気持ちを持って接している。対等な立場で言葉がけしたり、個人情報保護法について勉強会で学習し、質の高いケアを目指している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペースを大切にしながら業務に流されることなく、本人の気持ちを優先し支援している。		

グリーンクリスタル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは一人ひとりができる所で参加している。食材を切る音や料理の匂いがホームに漂い、入居者と職員は和やかに会話をし食事の準備をしていた。その楽しげなおしゃべりは食事中も続いていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望を優先しながら体調に留意して行っている。入浴を嫌がる入居者もいるが、入居者同士の誘いにつられて入ることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦の中から培った経験等を把握し、食事の準備、事務的な役割など、利用者の得意分野で活動出来るよう場面づくりに心がけている。それが入居者の楽しみでもある。季節の行事に参加したり、歌を聴いたり歌ったりして楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出できない時は隣接の施設に行き、2階から北信5岳を眺めたり、入所者と交流をしている。早朝であればホームで飼っている犬の散歩を兼ね近くの公園に出掛けることもある。複合施設の広い敷地内は散歩コースでもあり、時々近くの公園に散歩に来た地域の住民と挨拶を交わしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向の入居者の行動パターンを把握しているので外出した場合でも後をつけて行くななど、入居者が自由に生活出来るよう配慮している。安全上、センサーは2ユニットの4ヶ所に設置されているが、行動パターンの把握や見守りでの対応を重視している。		

グリーンクリスタル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人の施設と一緒に夜間想定で総合避難訓練を実施している。緊急連絡網での連絡訓練も行なっている。	○	いざという時に確実に避難が出来るように、地域の人達からの協力も得られるよう働きかけていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックをしている。栄養バランス等、専門的な事は複合施設内の栄養士に定期的に見てもらいアドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節感が感じられる花や写真が飾られている。ソファ、木の椅子、テーブルなどがあり、それぞれが好みの場所に座り、くつろいだり、自分の役割事をしていた。入居者の意志を尊重した生活の場づくりに配慮が見られ、入居者が居心地良さそうに日々暮らしていることが窺えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が大切にしている好みの物が置かれ、個々の入居者の生活史の一面を感じることができた。仏壇に飾られた写真、机の上に無造作に置かれた英字新聞等、自宅と同じ生活をしているような居心地のよい居室づくりがされていた。		

※  は、重点項目。